

もぐもぐだより

宮津市学校給食委員会
 献立作成部会
 令和4年9月7日
 No.7

がつ か じゅうごや 9月10日は十五夜!



じゅうごや きゅうれき がつ にち まんげつ み あき しゅうかく いわ ぎょうじ
 十五夜とは、旧暦の8月15日に満月を見ながら、秋の収穫を祝う行事です。このころの月を
 ちゅうしゅう めいげつ よ むかし にほんじん いちねん つき なが
 “中秋の名月”と呼んで、昔から日本人は「一年でいちばんきれいな月」として眺めてきました。

つきみだんご <月見団子>

こくもつ しゅうかく かんしゃ こめ こな まる つく つきみだんご はじ まんげつ み た
 穀物の収穫に感謝し、米を粉にして丸めて作ったことが月見団子の始まりです。満月に見立
 まる だんご そな けんこう しあわ え ぎょうじよく
 てた丸い団子をお供えし、それをいただくことで健康と幸せが得られるとされています。給食
 では、9月8日に十五夜メニューとして手作りのかぼちゃ団子を提供します。



さといも <里芋・さつまいも>

じゅうごや べつめい いちめいげつ い さといも いもるい しゅうかく いわ ぎょうじ
 十五夜は別名「芋名月」と言い、里芋などの芋類の収穫を祝う行事でもあります。

<ススキ>

つき かみ やど い むかし つき み か こよみ つく のうさぎょう
 ススキには月の神が宿ると言われています。昔は月の満ち欠けによって暦が作られ、農作業
 すす
 も進められていました。



がつ か ちゅうよう せっく 9月9日は重陽の節句!



きせつ ふしめ ひ せっく とく えどじだい さだ ごせっく いま たいせつ ぎょうじ
 季節の節目の日を「節句」といい、特に江戸時代に定められた五節句は、今でも大切な行事とされ
 ています。

じんじつ せっく 人日の節句 ななくさ せっく (七草の節句)	がつ か 1月7日	しょうがつぎょうじ し ひ ななくさ た けんこう ねが ななくさ はる 正月行事を締めくくる日。七草がゆを食べて健康を願う。七草は、春 ななくさ の七草をさす。
じょうし せっく 上巳の節句 もも せっく (桃の節句)	がつ か 3月3日	おんな こまつ いま まつ よ おお しろうさげ 女の子の祭り。今はひな祭りと呼ばれることが多い。白酒、はまぐり、 もち ひし餅、ひなあられなどを食べる。
たんご せっく 端午の節句 しょうぶ せっく (菖蒲の節句)	がつ か 5月5日	おとこ こまつ しょうぶ じゃきばら もち た 男の子の祭り。菖蒲は邪気払いとされている。かしわ餅を食べるのは、 は あとつ て は お かしわの葉が後継ぎが出るまで葉を落とさないため。
たなばた せっく 七夕の節句 ささ せっく (笹の節句)	がつ か 7月7日	あま がわでんせつ ぎょうじ ささだけ ねが こ ささだけ せいちょう 天の川伝説がもとになった行事。笹竹に願いを込める。笹竹は成長が はや なか くのうどう かみさま やど い 早く、中が空洞のため神様が宿ると言われている。
ちゅうよう せっく 重陽の節句 きく せっく (菊の節句)	がつ か 9月9日	ごせっく なか とく ぎょうじ きく ちゅうじゅ ねが くり 五節供の中でも特にめでたい行事。菊をめで、長寿を願う。栗ごは た んも食べられる。

こだいちゅうごく もっと おお ひとけた きすう かさ がつ か ひ きく はな
 古代中国では、最も大きい一桁の奇数、9が重なる9月9日をとってもめでたい日とし、菊の花
 う きくざけ ながい ねが ちゅうよう せっく いわ
 を浮かべた菊酒をくみかわして長生きを願う、重陽の節句として祝いました。

ぎゅうじよく すし しょくようきく い め み かお たの あじ
給食では、お寿司に食用菊を入れます。目で見て、香りを楽しんで、味わってください。